

⑪～⑬のように 予想して門をはいていったというのが当然だと思われる。

- 「みかんをとるな。まだ すっぱいぞ」
- 「あと、四、五日だ。まだ とるな」
- 「あすまで おまち。あと一日だ」

と、札のことが変っている。

「みかんをとるな」 「まだ とるな」

「あすまで おまち」となる。はじめ、強い禁止。次に、すこしやさしく、条件を述べ、最後は、「おまち」と、やさしくなる。食べさせてもらえると思えないのがおかしい。

②③⑥⑦⑩～⑲などは、文脈に即して読みなおしさせたいものである。(⑲をのぞく)

みかんが、ひとつもなくなっていると、予想したものは一人もいない。あとの文には、なくなっていたと書いてあるのだが、そのように想像してはいない。そうでなければ、「ひとつもない」、「あった」という意外性のおもしろさは、なくなってしまう。

- (6) 「みかんがなかったとき」のみんなの気持ち

これは、問題文の次の行に一郎たちの会話文が

⑥ 「みかんがなかったとき」のみんなの気持ち		
①	しまった	1
②	だまされた	33
③	うそつきなおしょうさんだなあ	2
④	くやしい	2
⑤	おしょうさんがかくしたのかな	2
⑥	あと一日だといったのにずるいな	1
⑦	うまそうなみかんたべたかったのに	2
⑧	へんだな きのうまであんなにいっぱい	1
	あったのに	
⑨	みかんがない	1
⑩	がっかりした	1
⑪	かんかんにおこった	1
⑫	びっくりした	3

あり、「気持ち」が述べてある。だから、そのところを主に、「みんなの気持ち」を答えている。一郎と三次が「だまされた」と、言っているからか、②に、33名と集中している。

他は、「くやしい」「がっかりした」「おこっている」「あてがはずれた」などととらえている。

⑨⑩などは、具体的に、きいてみたい答えである。

ある程度「気持ち」を表すことばがでている場合は、たしかめたり、具体化させることを指導しなければならない。「だまされた」にしても、だれの、どんなことに対し、どのようないきさつで、そう言っているのか、明らかにすべきである。

以上、ワークシートによる①～⑥の間について、二年生なりに、よく答えている。授業での発問などの場合は、挙手して発表するのが、5・6人程度である。しかし、その他の児童も、何かしら読みとり、心に描いているもののあることが、この調査からわかる。

そのような実態を適確には握し、まず共感し、たしかめ、関連づけ、読みを深めるようにしていきたいものである。また、楽しさや、おもしろさを広げていく配慮もしなければならない。

- (7) 個人ごとにまとめてみて

これまで、調査したことを、個人ごとにまとめてみた。

どの子も、「おもしろいところ」は書き出せる。「気持ち」を想像することもできる。国語の評定の低い子でも、童話の読みのような場合には、同じように学習にとりくむことができる。このようなどころから、自信を持たせたり、童話や物語を読む楽しみをどの子にも体験させたい。

授業での子どもの反応を具体的に予想することができ、それに即した対策を立てることができる。また、子どもの発言なども適切に取り上げ、生かすことができるであろう。